

ふくおかの経済

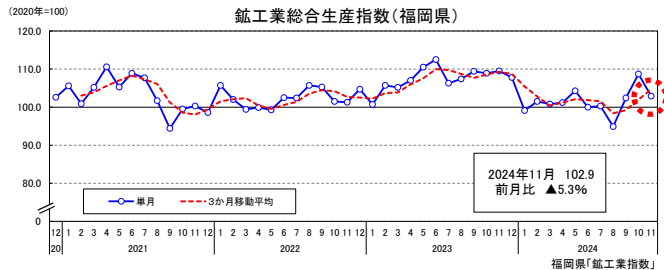
令和7年1月号



生産

持ち直しの動きがみられる。

11月の生産指数は、輸送機械工業、汎用・生産用機械工業などが低下したため、3か月ぶりに前月を下回ったものの、3か月移動平均では前月を上回りました。

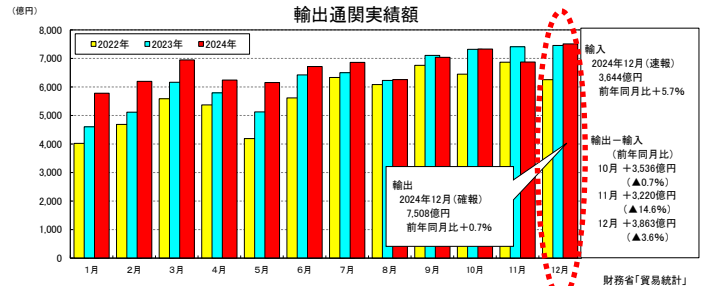


製造業生産指数は、2020年の生産水準を100として、その変化を表しています。

貿易

輸出額、輸入額ともに、前年同月を上回っている。

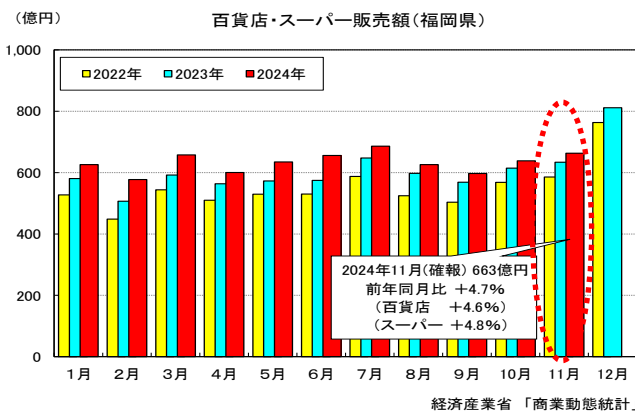
12月の輸出額は前年同月比+0.7%、輸入額は同+5.7%といずれも前年同月を上回りました。



消費

緩やかに回復している。

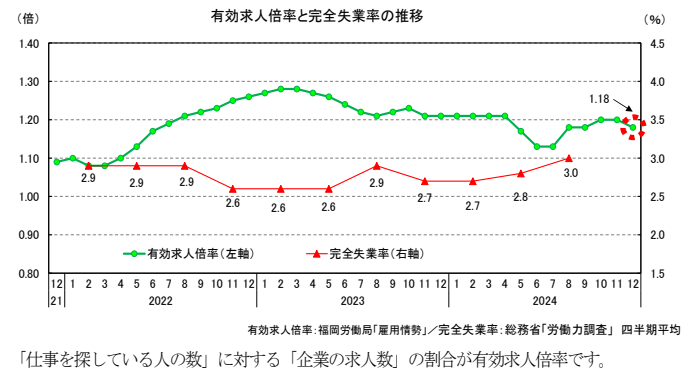
11月の百貨店・スーパー販売額は、38か月連続で前年同月を上回りました。



雇用

雇用情勢は、改善している。

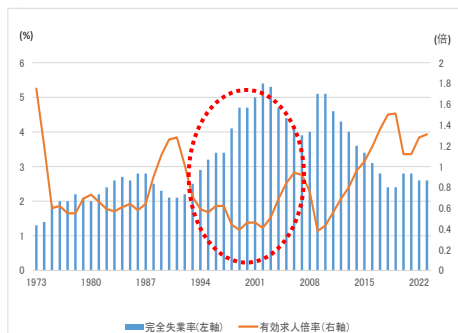
12月の有効求人倍率は1.18倍で、前月を下回った(▲0.02ポイント)ものの、1.00倍を上回っています。



今月のピックアップ 就職氷河期世代

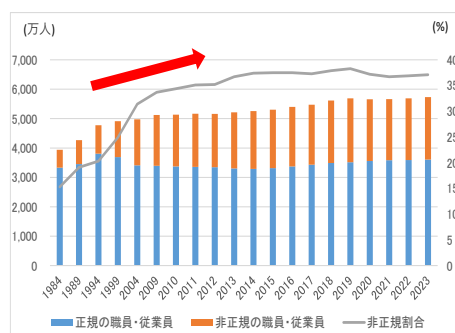
- 完全失業率及び有効求人倍率の推移をみると、1993年から2004年頃にかけて、雇用情勢は非常に厳しい状況でした(図表1)。この時期に就職活動を行った世代(概ね1970年~1980年生まれ)は「就職氷河期世代」とよばれ、その数は約1,700万人です。就職氷河期世代の中には、正規雇用を希望したにもかかわらず、非正規雇用とならざるをえなかった者も多かったといえます(図表2)。
- 40歳代の貯蓄状況をみると、二人以上世帯において「100万円未満」と回答した人の割合が、2003年には5.1%であったのに対し、2023年には36.4%と大幅に増加しており、貯蓄に回す余裕がない状況が推測されます(図表3)。就職氷河期世代がこのまま老後を迎えると、生活が成り立たない高齢者世帯が増加すると考えられます。
- 就職氷河期世代が老後を目前に控える今、就職氷河期世代が抱える問題(希望する就業とのギャップ、実社会での経験不足、年齢の上昇等)を踏まえつつ、個々人の状況に応じた支援により同世代の活躍の場を広げられるよう社会全体としての対策が求められます。

図表1 完全失業率と有効求人倍率の推移



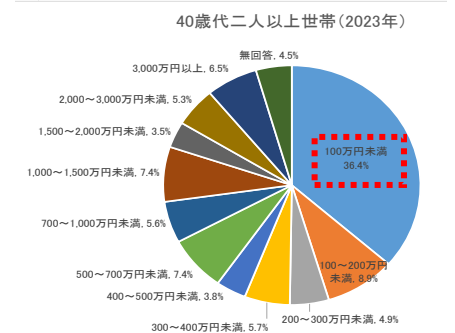
総務省「労働力調査」、厚生労働省「職業安定統計」より作成

図表2 正規雇用労働者と非正規雇用労働者の推移



総務省「労働力調査」より作成

図表3 金融資産保有額



金融広報中央委員会「家計の金融行動に関する世帯調査」より作成